

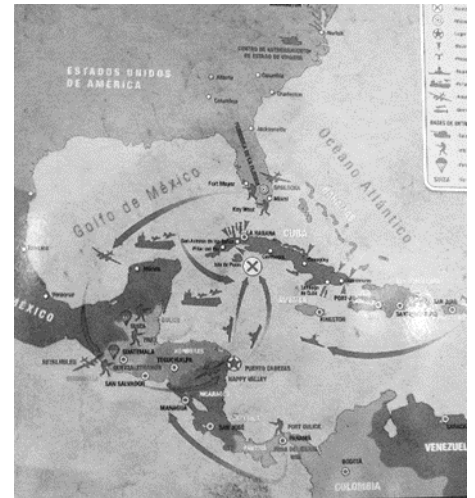
キューバ連帯の旗を掲げて

～米国によるプラヤ・ヒロン侵攻から祖国を防衛した 60 周年の年に～

●2020 年度はキューバを体感し連帯を深めてきた友好訪問団を 2020 年 11 月に計画していましたが、COVID-19 禍で実現できませんでした。そうした制約下でしたが、連帯の旗を掲げ、いろいろと工夫した活動を進めてきました。

皆様の協賛に感謝申し上げます。

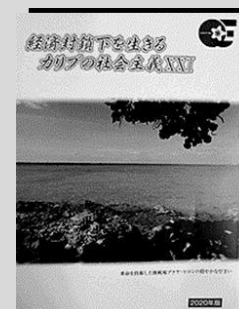
- ・2020 年 4 月 9 日、ICAP より「コロナ禍」に対するお見舞いメッセージが届く。
 - ・2020 年 8 月 13 日、駐日キューバ大使館からフィデル・カストロ生誕 94 年にあたっての依頼を受け、CUBAPON は大使館サイトにフィデルとの思い出を投稿。
 - ・2020 年 9 月、青年の島の日系人協会から「友好の家」建設状況が届く。
 - ・ベネズエラ S・B 平和連帯協会オンライン会議 11 月 16 日、ベネズエラのシモン・ボリーバル諸国民平和連帯協会とのオンライン会議がもたれ、本国ベネズエラから参加されたカルロス・ロン会長からお話を伺う。
 - ・2020 年 11 月 17 日、ICAP「教育関係者の日」にキューバ研究会(故・松矢文男・元 CUBAPON 事務局長発起)がビデオ参加。CUBAPON も協力。
 - ・2020 年 11 月 25 日、12 の友好団体から 75 人が参加して第 6 回全国キューバ友好のつどいがリモート方式で開かれ、傍聴参加。
 - ・「地域フォーラム：アジア・オセアニア～対キューバ封鎖に反対する国際連帯オンライン集会」がキューバ中央労働組合連合(CTC)の主催で、2021 年 4 月 30 日 22 時(キューバ時間)に開催され参加。
 - ・2021 年 5 月 1 日、ICAP が現地で実施した友好団体メッセージ TV 放送に村上久美子 CUBAPON 事務局次長が参加。
 - ・E メール発信『フェイクに抗う中南米情報』は 27 回発信(2020 年 6 月～現在)。
 - ・CUBAPON 会報は年 3 回発行してきました。
- 会報 60 号(2020 年 5 月発行)送付後、会報 61 号、62 号を協賛会費、寄附金をいただいた方々にお送りしてきました。ご希望の方は、連絡下さい。また、ホームページ ifcc1985.org/cubapon でもご覧いただけます。



ピッグス湾のプラヤ・ヒロン。写真上は革命圧殺を目論んだ米国の侵攻模様図。ここで 1961 年 4 月 17 日から激闘があり多くの血が流されキューバ革命が守られた。それから 60 年の年に第 8 回共産党大会が開催された。写真下は、革命防衛の為に流された戦士を称えた博物館。CUBAPON の友好訪問団は 2019 年 11 月 30 日、訪れた。



経済封鎖下を生きる カリブの社会主義 Vol.21



革命60年の年に、プラヤ・ヒロンも訪問しました。キューバの現地見聞レポートです。ぜひお聞かせ下さい！(2020年発行)

頒価 800 円

《会報バックナンバー紹介》

61 号内容(2020 年 9 月)

・青年の島で「友好の家」が着々と ・パンデミックに立ち向かうキューバ ・いま、中南米では ・サンパウロ・フォーラム 30 周年会談 ・添付:キューバ医療チームがベトナムを支援

62 号内容(2021 年 2 月)

・キューバの医師にノーベル平和賞を ・2021 秋キューバ訪問団を予定 ・キューバ通貨一元化実施へ ・いま、中南米では(ボリビア、ベネズエラ) ・核兵器廃絶に向けてともに努力を/駐日ベネズエラ大使 ・映画の紹介「イノセンシア」、本の紹介「ゲバラのHIROSHIMA」 ・コロナ禍でリモート連帯/第 6 回全国キューバ友好の集い、ベネズエラ S・B 平和連帯協会

●1961 年 4 月 19 日のプラヤ・ヒロンの防衛戦争勝利から 60 周年の年、キューバ共産党第 8 回大会が 2021 年 4 月 16 日～19 日開催され、ラウル・カストロななど一期の革命世代が去り、継続する革命の新指導体制へと移行しました。今年の 1 月から通貨改革も行われ、文字通り新たな革命の歩みをはじめました。また、同年の 4 月 19 日はフィデルが社会主義革命を宣言した日でもあります。

CUBAPON の活動にご協力いただきありがとうございます。2021 年度会費(2021.6.1~2022.5.31)会費:3000円にご協力お願いします。
振込は郵便振込口座 00170-2-195919 口座名:日本キューバ連帯委員会

●記録映像『そしてイスラの土となる～日系キューバ移民の記録』制作が開始されます。これは、CUBAPON が長年友好を深めてきたキューバで最も多く日系人が暮らしている青年の島を舞台とした記録です。このため、クラウド・ファンディングで制作費調達を呼び掛けることになりました。ー詳細は別紙

2016年7月10日、青年の島で永眠された島津三郎さん。享年108歳。島津さんは1828年キューバに赴き一度も日本の土を踏まず、最後の移民一世だった。この島津さんも映像記録に納められている。(写真は99歳当時の取材から)



CUBAPON2020 年度収支

(2021年6月1日～2021年5月)

支出		
会報印刷代	87,143	60号、61号、62号
その他印刷代	168,213	チラシ、封筒、資料、パンフ
送料・送金料	164,663	会報、連絡、郵振など
事務局諸費	26,279	HP分担費、外為総飲料等
事業費	0	訪問団無し
資料代	8,600	訪問団報告書買取
借入金返済	0	19借入無し
計	454, 898	
収入		
19 繰越	16,839	
会費	273,000	91人
20 活動カンパ	171,848	43人から寄付
借入金	59,601	IFCCより
計	521, 288	
※前年度の2倍近くの協賛会費となった。 ※コロナ禍で訪問団事業費は生じなかったが、会報発行や資料発行が増えた。 ※次年度繰越は66,390円。うち借入を除いた正味残金は6,789円		

CUBAPONの活動は皆様の協賛会費と寄付金で続けています。紙上をお借りし御礼申し上げます。

- ☆2020年度はコロナ禍でいろいろと活動が制約されるなか、例年以上の協賛カンパと寄附金を頂き、会報も3回発行するなど、精力的に活動してきました。
- ☆Email 発信「フェイクに抗う中南米情報」も2020年度は27回発信し、他に『米国の労働者階級を擁護する』、『キューバ、5つのCOVID-19ワクチン開発』をパンフレットにして希望者に配布してきました。
- ☆心待ちのキューバ訪問時期が不透明ですが、“継続するキューバ革命”に連帯する活動の為、今年度も協賛会費と寄付金を宜しくお願いします。



キューバ訪問団(11月出発予定)を 2022年4月下旬へ延期 2021年9月に詳細案内

- ・2020年の中止に加え、2021年もコロナウイルスによるパンデミックでCUBAPON友好訪問団は残念ながら実施を断念せざるを得なくなりました。
- ・キューバは自前ワクチン開発が進み、2021年末までには全国民に接種が行き渡る模様ですが、肝心の訪問団側(日本側)の見通しが立ちません。オリンピックに向けた“インパール作戦”のような“人災”が日本で起きています。
- ・青年の島で進められている「友好の家」開所を見ることを心待ちにしているところですが、やむなく延期して収束状況を見て判断したいと思います。
- ・先進資本主義国を中心とした多くの国々が医療崩壊に直面する中、50カ国以上の国に医師団を派遣しているキューバとは一体どういう国なのか、どんな思いで国際連帯活動に取り組んでいるのか、行って実際に見てみたい、じかにお話を聞いてみたいという気持ちが募ります。
- ・コースは医療施設見学、フィデル・カストロ革命最高司令官のお墓参りなどを盛り込んだ、充実した内容の訪問団です。ぜひ、この機会に、生のキューバに触れてみてください。
- ・催行が具体化し次第、日程、費用などの詳細を追ってご案内いたしますので、資料ご希望の方はメールまたは電話でご連絡ください。

	都市名	スケジュール	食事
1	羽田発 ハバナ着	午後：エアカナダで、空路トロントへ 国際線乗継で、深夜ハバナ着	朝：機 昼：機 夕：×
2	ハバナ サンティアゴ	【世界遺産】ハバナ旧市街・モロ要塞、革命博物館、小説「老人と海」舞台コヒマルなど 空路、サンチャゴへ	朝：機 昼：機 夕：○
3	サンティアゴ	サンタ・イフィヘニア墓地でフィデルのお墓参り モンカダ兵営、サンティアゴのモロ要塞など	朝：○ 昼：○ 夕：○
4	サンティアゴ ハバナ	ピランのフィデル・カストロの生家を訪ねる他、 モンカダ兵営襲撃ゆかりの地、シボネイ農場など その後、空路ハバナへ	朝：○ 昼：○ 夕：○
5	サンタクララ	チェ・ゲバラ廟、ゲバラ博物館、カビーロの丘、列車転覆博物館など、 チェゆかりの地を訪ねる	朝：○ 昼：○ 夕：○
6	ハバナ	学校・診療所視察、友好協会・労働組合中央本部表敬訪問 ハバ市内にてショッピングなど	朝：○ 昼：○ 夕：○
7	ハバナ発	早朝、エアカナダで空路、帰国の途 トロント経由、羽田へ	朝：○ 昼：機 夕：機
8	羽田着	午後：羽田着 お疲れさまでした	朝：一 昼：機 夕：×
OP	青年の島	※オプション(OP)：延泊して青年の島・「友好の家」訪問	

連絡先 TEL 03-3268-6014
Email: jvccpf@rmail.plala.or.jp
IFCC 鎌田まで

記録映像「そしてイスラの土となる～日系キューバ移民の記録」制作への思い

映像作家 鈴木 伊織

【制作意図、及びクラウド・ファンディングのお願い】

現在制作中の日系キューバ移民に関するドキュメンタリー作品、「そしてイスラの土となる～日系キューバ移民の記録」につきまして…まず、その制作のきっかけについて記します。

私、監督の鈴木は2007年5月、IFCCのツアーに参加する形で、初めてキューバを訪れました。当時は私自身、長く在籍していた制作プロダクションを離れ、フリーランスとして生きて行く事を決断した時期であり、又、今後の仕事との関わり方・進め方等について模索を続けていたタイミングでもありました。このキューバ行きが、自らの進むべき方向性に何らかの指針を与えてくれるものになれば…そんな動機であったと記憶しています。

せっかくキューバに行くのであれば、何かネタの一つでも拾って来たいと考えるのが映像屋の性で、色々資料を調べる中で行き当たったのが、日系キューバ移民の存在でした。

その際は、ハバナ在住のフランススコ・シンイチ・宮坂さん、イスラ・デ・ラ・フベントウ(青年の島)在住のノボル・宮澤さん等二世の方々にお話を伺えた上に、運良く移民一世最後の生存者であった島津三郎さんにも、直接お目に掛かる事が出来ました。島津さんは当時 100 歳に近い高齢であったにも関わらず、記憶力も確かで、何よりキューバ現代史の中で彼自身が体験した波乱万丈の人生、それ自体が実に興味深く、その明るいキャラクターも相俟って、結果として大変面白く、豊かなインタビュー映像を撮影する事が出来ました。又、この訪問時にノボル・宮澤さんからは、母・かをるさんが晩年に残した貴重なインタビュー映像も提供して頂きました。そこで語られていたのは、かをるさんが初めてキューバを訪れた際の印象…そして第二次対戦中、強制収容により夫不在の中、数々の苦難に見舞われながら家族を守り抜いた話等…。それまで日系キューバ移民の存在すら知らなかった私は、彼等の語る証言内容の余りの凄まじさに衝撃を受けるのと同時に、その歩みを日本中に、広く知らしめるべきだと考えました。

帰国後、私は早速企画案を作成し、複数の TV メディアに提出しましたが、その反応は何れも、芳しいものではありませんでした。曰く、「日本では殆ど知られていない日系キューバ移民の話等、誰の興味も惹かない」と黙殺されてしまったのです。

この時に味わった挫折感、無力感が逆に、後年、私を奮い立たせる原動力になったとも言えます。それから約 10 年…糊口を凌ぐための仕事に忙殺される日々の中で、私は新聞に掲載された小さな記事を通して、2016年7月10日、島津



青年の島のモデロ監獄跡博物館にある移民たちの写真。第二次大戦時、敵国人として一時収容されていた。

移民たちの歩みの凄まじさに衝撃を受けて

さんが亡くなられた事を知りました。その瞬間、私の胸は申し訳無さで一杯になりました…勿論、島津さん等取材に協力して頂いた日系キューバ移民の方々への懺悔の気持ちからです。彼等の歩みを日本に紹介する…10年前に誓ったはずのその約束を、やはり果たすべきだと考えました。例え自主制作という形でも。そして 2019年12月、私は再び、キューバの土を踏む事になります。島津さんや宮澤かをるさんの証言を補填する映像を撮影するために…。現在、編集作業もほぼ終了しました。今回、新たに撮影した映像素材を加える事により、20世紀のキューバに於ける日系人移民史を描く事が出来たのではないかと自負しています。

私個人で出来る範囲の作業は終了しましたが、今後、作品の質をより高めるために、以下の作業を専門のプロに依頼する必要があります。

CG制作費=約10万円/音楽費=約10万円/ナレーター費=約10万円/録音作業費(スタジオ代)=約20万円 合計約50万円

更には完成作品を現地の人にも観て貰いたいという希望があります。移民の子孫が日系人の歴史を学ぶための教育ツールとして、是非活用して欲しいのです。そのために現地語(スペイン語)ヴァージョンの制作も考えています。その際にはやはり、以下の作業費が必要となります。原稿翻訳費=約20万円/ナレーター費=約10万円/録音作業費(スタジオ代)=約20万円 合計約50万円
今回、これ等諸経費につきまして、皆様方のお力添えを頂けないかと考え、クラウド・ファンディングでのご協力を提案させて頂いた次第です。

今回の趣旨にご賛同頂ける個人、及び団体の皆様の温かいお気持ちを、心よりお待ち申し上げます。拙い文章故、何処まで伝える事が出来たか甚だ不安ではありますが、最後までお読み頂き、有り難うございました。何卒ご助力の程、宜しくお願い致します。



2021年6月4日

本稿は、去る4月28日、開催された「キューバ共産党第8回大会」に関するリモート講演会で駐日キューバ大使館のクラウディオ・モンソン臨時代理大使の講演が報告したデータをCUBAPONで編集したものです。

キューバにおける共産党大会の意義

- 党大会は、キューバで最も重要な政治的出来事の一つで、そこで国の政治・社会・経済の基本路線に大きく影響する決定がなされる。
- すべての党大会は、歴史的継続性を保ち、方向転換が行われたことはない。
- しかし、第8回大会は、2011年から始まった「経済・社会モデルの刷新」として知られる政治・経済プロセスの一環として捉えることができる。その意味で、同様に捉えることのできる第6回大会（2011年）、第7回大会（2016年）と直接的な繋がりをもつ。



経済・社会モデルの刷新

- 経済計画を修正し、行政の直接的メカニズムに代わって、マクロ経済政策による間接的メカニズムを優先すること。そのためには、国民による社会主義的所有（国営企業）を主要な生産手段の基本的所有形態として保ちながら、市場メカニズムを拡大させ、民間活動の役割を拡大させる。
- 2011年の第6回大会は、2か月間の大衆討議の後、「党と革命の経済・社会政策基本路線」提案を承認した。これはモデルの刷新綱領的文書。
 - この大衆討議には8百万人を超える人々が参加し、3百万件を超える発言があった。市民による提案をもとに、文書の68%が修正され、同党大会で採決された。
- さらに、基本路線実施のための常設委員会が設置され、今日まで、この過程を指揮する中心的役割を果たしてきた。
- 2016年の第7回党大会は、刷新過程の理論的基盤となる「キューバの社会主義的発展の経済・社会モデルの概念規定」が採決された。また、2030年までの経済・社会発展計画も採決された。これは中長期の戦略的観点から、キューバ経済の構造的問題を解決しようとするもの。さらに、「党と革命の経済・社会政策基本路線」も更新された。
- 「刷新」における今までで一番重要な進展は2021年1月に始まった「通貨・為替制度の整備」である。
 - 二重通貨と二重為替レート制度の廃止により国民の基本消費を保護していた暗黙の物価補助金のメカニズムをなくす。
 - 補助金の廃止に伴う物価上昇は、労働者と年金受給者の収入増加で相殺される。その結果、国民の消費ニーズは個々の収入により満たされなければいけない。
 - これにより、マーケットシグナルに対応し、より間接的な経済管理メカニズムへの移行を可能にする経済機能を達成するための条件が整う。

第8回キューバ共産党大会

- きわめて厳しい経済環境の中での開催が特徴。
 - 過去4年間、米トランプ政権のもとで、キューバへのかつてない封鎖強化が行われ、242件の措置がとられた。それらは今だに継続中。
 - 新型コロナパンデミックにより、キューバの観光収入はほぼゼロに。（観光は外貨の主要な収入源のひとつ）
 - コロナ対策のために、国家予算の異常な支出が生まれた。
 - それに加え、キューバ輸出の国際的需要の減少があった。
 - 感染予防対策が国内経済に与えた否定的影響がある。
- 2021年4月16日～19日開催。

- 1961年4月16日、は米国政府が組織し、資金援助したブラヤヒロン侵攻直前にフィデカストロが社会主義革命宣言を行った日、
- 4月19日はブラヤヒロンでキューバが勝利した日。
- 大会には300人の代議員が参加。58,000の支部に組織された70万人の党員の代表として。
 - 新型コロナパンデミックのため、通常の3分の1以下の人数。
- 党員数70万人は、前回の党大会と比べて27,000人増。
 - これは最近の数年間、年間39,000人の新規入党者があった結果です。
 - 新党員の3分の1は、35歳以下。

経済的課題

- 「基本路線」について、2011年からの施行状況が分析された。
 - 第6回党大会以降に承認された244の政策、及び第7回党大会で更新された「党と革命の経済・社会政策基本路線」のうち、30%が既に施行され、40%が施行中、残り30%が提案・承認段階にある。
- 分析の結果「キューバ社会主義的発展モデルの概念規定」の更新、及び「党と革命の経済・社会政策基本路線 2021-2026」がそれぞれ承認された。
- この二つの綱領的文章からは今後のキューバの経済政策の路線を読み取ることができます。それらに含まれる主要な点は次の通りです：
 - 様々な形態の所有と経営を認め、多様化させる。
 - 社会主義的国営企業を経済の主体として強化する。
 - 国家は全経済勢力の監督、調整、規制的な役割を果たすが、同時に諸権限の地方分散化を進める。
 - 市場を認め、規制し、その適切な機能を達成する。その目的は、中央指令的行政措置がマクロ経済的政策と連動し、様々な経済的勢力が社会全体の利益に沿う形で意思決定するようにする。
- その一環として、生産者または販売者が所有や経営の形態にかかわらず、投機など悪しき商習慣を防ぐ必要がある。
- 経済の構造的諸問題の解決に向けて前進する。特に農牧産品を中心に食料の生産と販売を促進する。エネルギー供給構造に占める再生可能エネルギーの比率を高める。輸出及び効果的な輸入代替の拡大、観光業の回復と促進、外国からの直接投資の推進。
- 必要な調整を加えた上で、「通貨・為替制度の整備」を進める。目指すところは、経済運営における金融手段のさらなる活用を進め、主要なマクロ経済バランスの達成に向けて前進する。

特筆すべき点として、ラウル・カストロは今回の党大会で演説し、多くの債権者が債務再編に前向きであることに感謝の言葉を述べた。そして、経済が回復次第、国際債務の返済を再開す

る意向を確認した。彼が説明したように、封鎖が強化される中で債務の返済は容易ではない。しかしキューバには、約束を履行するという確固たる決意があり、尽力を重ねている。ささやかな額の支払であっても、大きな犠牲を伴う。

世代交代と継続性

- 党指導部の構成が更新され（政治局、書記局、中央委員会）世代交代が起きました。
- 無論これは象徴的に重要な変化である。というのは、1959年の革命の勝利を導き、以後キューバを率いた世代が完全に引退して、革命後に生まれた人物が、国家と党の指導者に就任するからである。
- しかし実質的には大きな変化はない。キューバでは近年、政治的要職の人事交代が着々と順序だてて実行されてきた。
- 政府の要職での世代交代は既に行われていた。
 - ・ ディアスカネル氏は2018年、国家評議会議長兼閣僚評議会議長に就任
 - ・ そして2019年、新憲法で創設された大統領職に就任。
- それに伴い、指導者個人の影響は小さくなった。それは、集団指導体制へ移行し、機能を分担し、制度化を進めるという論

「達成した任務に満足し、祖国の将来に対する自信をもって、キューバ共産党中央委員会第一書記としての私の職務を終える。私にたいする党組織上層機関への留任提案を受け入れないという熟慮の上での信念をもって、党の隊列の中で、私は一人の革命家として、命尽きるまでささやかな貢献をする覚悟で戦い続ける。」ラウル・カストロ



- 理に従ったものであった。
- また、党の新指導部は、これまでと同じ原則と考え方を継承すると明らかにしている。
 - 刷新プロセスは、革命世代が政治的要職に在った時期に始まり彼らにより推し進められてきた政策でこの10年の間その性質に変化はありません。
 - 変革の速度は指導部の意思、考え方によって決まるものではなく主にキューバ国内外の経済状況によるものです。この中で最も影響を及ぼしているのが米国の経済封鎖です。
 - なぜなら、キューバは国際貿易への依存度が高いため、経済封鎖によって国の外貨準備にかかる重大な圧力は直接国民の生活レベルに反映されます。
 - 革命世代も現指導部もショック療法を取らず、「誰も見捨てない」ということを不変の原則として受け止めている以上、国民の生活レベルに圧力がかければ経済政策の中に中央指令的行政措置を優先することにつながる。

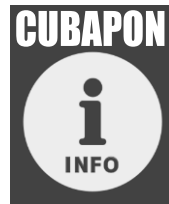
その他の結果及び留意事項

- 複数の指導者による官僚主義、惰性、変革への抵抗が批判された。汚職を始めとする不正事例に対する管理不足も批判の対象となった。
- 性的指向と性自認に関する偏見の防止対策を強化する必要性が認められた。

- より効果的な人種差別防止の取組みが呼びかけられた。
- これらは重要なメッセージである。その理由は、これらが反キューバ・プロパガンダにおいて頻繁に使用されるテーマであるからです。
- 革命の社会的成果と事実を無視して、人工的にキューバでは阻害されたマイノリティーがいるというイメージを作るため。
- 透明性を持って公然と前述のテーマを扱うということは、キューバ共産党が対キューバ中傷キャンペーンに反論するよりもこういう課題においてまだ不十分な点への取組みを優先している表れである。
- 重要な考えとして、共産党の指導的役割が再確認された。しかし同時に、その機能において最も広範な民主主義を促進し、率直で深い意見交換（常に一致を見るものではないが）を維持する必要性も再確認された。労働者及び国民との関係を強め、重要な意思決定における市民参加の拡大を更に進めることが確認された。
- 最終的に党大会報告では、キューバの外交政策における主な立場が繰り返えされた。特に米国との関係が強調された。

この意味で特筆すべきは、ラウルの言葉である。“私は言明する…米国と敬意を持った対話を促進し、新しい種類の関係を構築する意志を。その達成のために、キューバに革命と社会主義の原則を放棄させようとするものもなく、キューバが主権と独立に関して譲歩することもなく。理想の擁護、正当な大義に基づく外交政策の執行、諸国民の民族自決権の擁護、そして兄弟諸国への歴史的な支援において、キューバが屈することもなく”。

以上



セニョリータの
ラ米★ウォッチ



中南米のホットなニュースを不定期でお届けしています。
配信ご希望の方はこちらのアドレスにメール下さいね！

jvccpf@rmail.plala.or.jp

顔の見える、体感を感じる、交流を心待ちして生きているアイエフシーの案内です。

TOUR OPERATOR

アイエフシー

はCUBAPON関連の手配旅行社です
キューバをあなたに届けます

- ◆ アイエフシーはIFCC国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通じた友好・交流プログラムを演出します。
- ◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号
〒162-0801
東京都新宿区山吹町333番地 社ビル405
TEL 03-3268-6014 FAX 03-3268-6079

フェイクに抗う

★Email 発信情報「フェイクに抗う中南米情報」を前年度は27回発信してきました。CUBAPON 事務局次長・村上久美子さんの「セニョリータのラ米ウォッチ★」は、米国ルートの情報しか日本に届かない状況に楔を打ち込む貴重な情報となっています。

★今回、直近に発信しました情報を掲載します。情報“弾”による情報格差によって社会が左右され分断も拡大しています。キューバへの「テロ支援国家指定」など、何を根拠としているのか。コロナ禍でも生存をかけて闘い続けるラテンアメリカの人々の「今」はどうなっているのか。

★jvccpf@mail.plala.or.jpまで、あなたのEmail 登録をお願いします。

2021年5月12日 発信

セニョリータのラ米ウォッチ★

● エクアドル大統領選挙・アラウス候補敗北

4月11日投票のエクアドル大統領選挙は、事前のアンケート調査*による予想を覆し、左派候補アンドレス・アラウス 47.5%に対し、右派ギジェルモ・ラッソが52.5%で当選しました。

※ CLIMA SOCIAL 社の投票日前日の調査

アンドレス・アラウス:50.8%、ギジェルモ・ラッソ:49.2%

メディアによるアラウス攻撃も酷かったですが、何より1度目の投票で3位に終わった「(怪しげな)先住民エコ活動家」ヤク・ペレスの票が予想外にラッソに流れたのが一番の敗因かと思えます。

アラウスの選挙キャンペーンで、先住民の顔が見えず、妙にきれいな若い女性ばかり目立っていて、なんとなく不安ではあったのですが。

アラウス候補は、僅差にも関わらず再集計を要求せず、直ちに敗北宣言を行いました。ラテンアメリカでは僅差で終わった選挙後、(右派敗北後はほぼ必ず)暴動が頻繁に起きていることを思えば、賢明な判断だったでしょう。

まだ37歳なので、アラウスには次のチャンスもあると思いますが、エクアドルはあと5年、新自由主義のもとで耐えなければなりません。

● ペルー大統領選挙

ペルー大統領選挙もすごい番狂わせがありました。

今年3月のアンケートで8位だった急進左派「ベドロ・カスティージョ」氏(下写真:左)が1度目の投票で18.1%の得票でトップに立ってしまったのです。

決戦投票の相手は14.4%の得票の「ケイコ・フジモリ」(写真:右)。汚職をはじめ殺人、恐喝、人権侵害など25の罪状で禁固刑になっている、あのフジモリ元大統領の長女です。



日本では、このフジモリ氏の罪状を知ってか知らずか、「日系人女性が頑張っている」と応援する声も早くも出ていますが、ペルーでフジモリによって殺害された犠牲者家族から見たら、どう見えるのか、ちょっと考えてほしいものです。

ベドロ・カスティージョ候補は地方の小学校の教師で、日本でいえば日教組の地方の支部長のような方の方です。あまりにも急に登場したので、どういう方か私もよくわからないのですが、「もし大統領に選出された場合はペルーの銅鉱山に関する外国企業との契約を見直し、利益の70%がペルーに残るようにする」と発言するなど、なかなか気合の入った「左派」の方です。

地元メディア『ラ・レプブリカ』が発表した調査では、6月6日におこなわれる決選投票で、カスティージョに投票する回答者は41.5%、フジモリ21.5%という結果が出ていますが、そうした外国企業と、企業の利益を守るために存在している西側各国の政府が、カスティージョの当選を黙って見ているかどうか、注目しましょう。

※注記:6月6日の決選投票は、地主や大資本家と手を結んだ「ケイコ・フジモリ」が追い上げたが、前評判どおりカスティージョ候補が50.26%制している。(開票率98.15%、6月9日、産経配信) だが、ご多分にもれず、カスティージョ勝利を望まない勢力による介入が予想されている。(記:2021/6/9)

● コロンビア

基本的な食料品の価格を引き上げる税制改革の提案に対し全国



ストライキ委員会が呼びかけたに抗議行動が、4月28日からコロンビア全土で続いています。

税制改革案については5月2日、ドゥケ大統領は修正する用意があると発言したものの、5月9日段階で不法拘束1,023件、行方不明980人、死者43人、負傷者1,330人(ヒューマンライツ・インターナショナル調べ)というドゥケ政権の凄まじい弾圧の中、焦点はすでに税制改革ではなく、政権の非人道性への抗議になっています。

実際、弾圧の動画などを見ると、ちょっと言葉を失います。警察、軍が戦車から人が集まっているところに連射する、まるで無差別殺人の様相です。

こうした中、国連が5月4日、「治安当局の過度の武器使用、実弾の使用、殴打、逮捕」を非難し、「政府は平和的な抗議行動の継続を許可しなければならない」とする声明を出しました。

国連が、治安当局＝暴力、抗議行動＝平和的と言い切っていることに注目してください。

というのは、「抗議行動が暴徒化」と伝えている西側メディア(日本含む)に騙されないようにしてほしいからです。

ベネズエラの反政府極右は全く平和的ではありませんでした。しかし、ベネズエラのマドゥロ政権を「独裁だ、暴力的だ」とあれほど非難した西側メディアは、親米コロンビアについては真逆の態度をとっています。

ラテンアメリカのできごとを追っていくと、「西側メディア」のウソが嫌でも目に入ってきます。日本には左派系メディアが一つもないのが残念です。

では！